

2007年10月 九鼎会秋合宿 症例検討

宮崎大学漢方医学研究会

2年 野田 貴穂

3年 久保 衣里奈

3年 白崎 幸枝

(症例)24歳、女性 (主訴)発熱、咳嗽

(病歴)咽頭痛、咳嗽(夜間に多い)、発熱、寒気と熱感、両目やや充血

舌体：やや紅、舌苔：白苔あり

脈診：弦やや滑

(弁証)

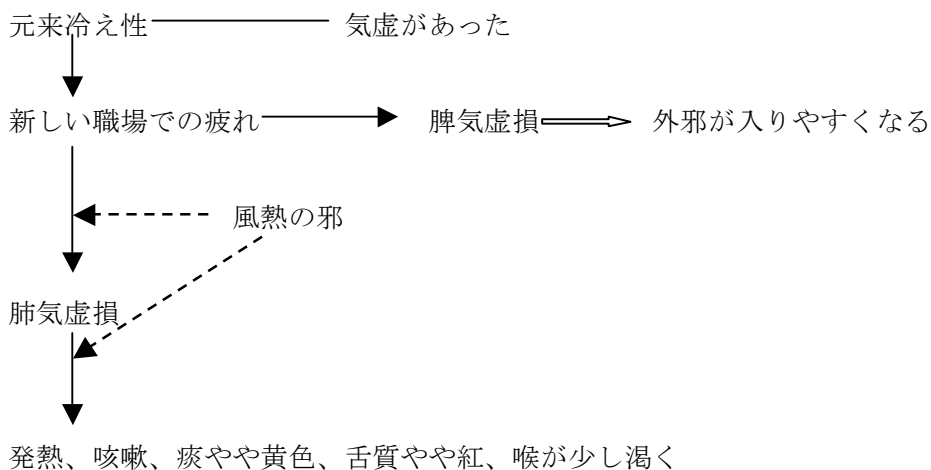
①八綱弁証 表裏：半表半裏
寒熱：熱 → 発熱、口渇、黄色調の痰
虚実：虚

②病因、病邪弁証 外因＝風熱
内因＝憂(肺) and 思(脾)
病理産物＝痰

③気血津液弁証 気：気虚
津液：痰

④臓腑弁証 脾→肺 ---▶ 咳嗽(風熱犯肺)

(現在までの流れ)



(治法)散風清熱止咳

(処方)桑菊飲

- ・杏仁 6g、桔梗 6g：宣肺の桔梗と降肺の杏仁が肺気を調整し、宣肅を回復して咳を止める。
- ・桑葉 7.5g：肺絡を清透し肺熱を清して止咳に働く。
- ・菊花 3g：上焦風熱を疏散する。
- ・芦根 6g：清熱生津・止渴に働く。
- ・薄荷 2.5g：主薬(桑葉・菊花)を助けて風熱を疏散する。
- ・連翹 4.5g：膈上の熱を清透する。
- ・甘草 2.5g：諸薬の調和に働く。